

モモの整枝・せん定

県北農林事務所伊達農業普及所
JAふくしま未来伊達地区モモ生産部会

1 基本樹形

- (1) 2本の主枝と各主枝に2本ずつ亜主枝を配置する、開心自然形を基本とする(図1)。
- (2) 目標樹高は、4m程度、樹幅は、地力等にもよるが、7~8m程度を目安とする。
- (3) 横からも樹冠内部に光が差し込むよう、成木時に隣接樹との間隔を1m程度確保するために、将来の樹冠拡大を見越した植栽や、計画的な縮・干ばつを実施する。
- (4) 開心自然形は、受光態勢と作業性のバランスを考慮したものだが、樹齢が進むなかで、側枝の更新・育成や、背面枝の管理が適切でない場合は、骨格枝先端の下垂による樹勢の衰弱(先端の負け枝化)や、結果部位が外側に分散したり、上向き枝が拡大して高所作業が多くなるなどの問題が発生する。
- (5) モモは、日当たりの悪い場所の枝は枯れるという特性があるので、樹冠内部の日照条件を改善し、作業しやすい場所に良い結果枝を育成する。

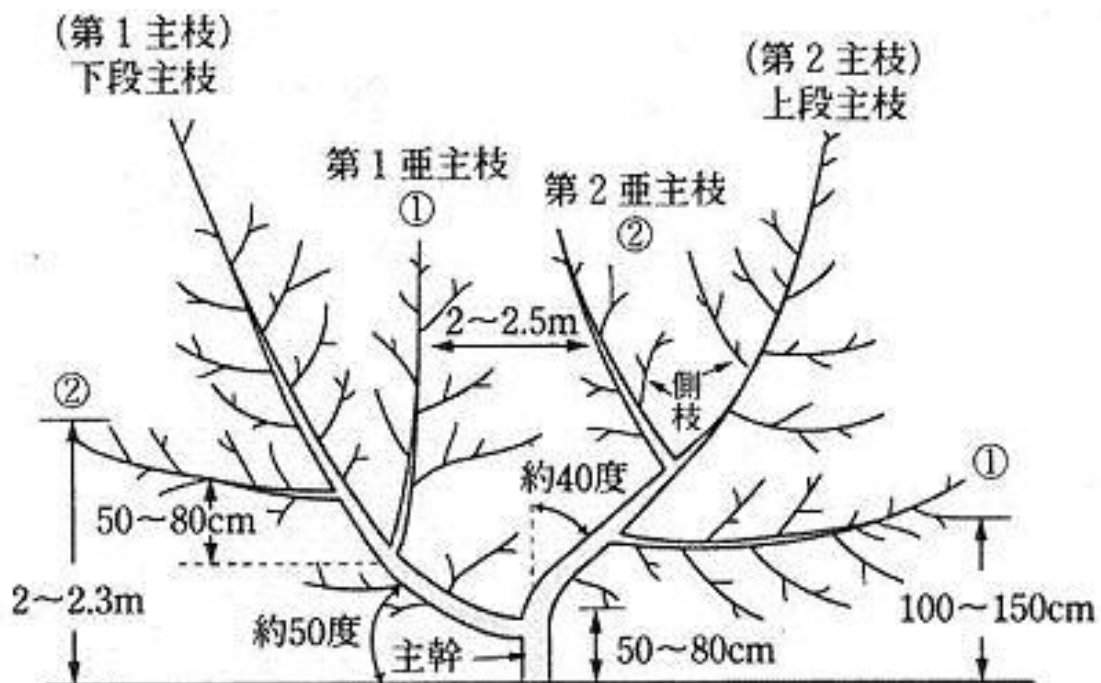


図1 開心自然形

※ 樹高を4m以内におさえ、6尺脚立で生育期間の大半の作業が行えるようにする

2 整枝・せん定の基本的な考え方

(1) 樹冠内部の日照を改善する

上枝や背面枝を整理して樹冠内部の日照を確保し、作業しやすい高さに良い結果枝が育成されるようにする。

(2) 主枝や亜主枝の勢力バランスを保つ

主枝が負け枝にならないように、亜主枝は主枝の赤道部～やや腹側から発生した枝を使用し、背面側の枝は利用しない。

骨格枝の先端が衰弱したり、下垂しないように、主枝や亜主枝先端の延長枝には着果させないように管理する。先端が下垂した場合は、下垂部位直下の上向き枝まで切り戻す、またはそのための更新枝を準備する。

(3) 側枝を適切に配置する。

側枝は骨格枝上にバランス良く配置するとともに、それぞれの側枝は、その長さに対して幅をコンパクトに維持する(図2)。また、結果部位の樹冠外部への分散を防ぐとともに、若返りを図るため、大型側枝や古い側枝は、切り戻しや間引きにより早めに更新する。



図2 側枝配置のイメージ

※ 側枝先端を結んだ線がモモの葉を形作る。

(4) 側枝内の結果枝の配置

常に主従をはっきりさせ単純化するように心がける。側枝の分岐を大きくすると、側枝の形状が複雑となり、日当たりが悪くなるので、側枝の形は基部側がやや大きい細い紡錘形(モモの葉の形をイメージして)におさえる(図3)。

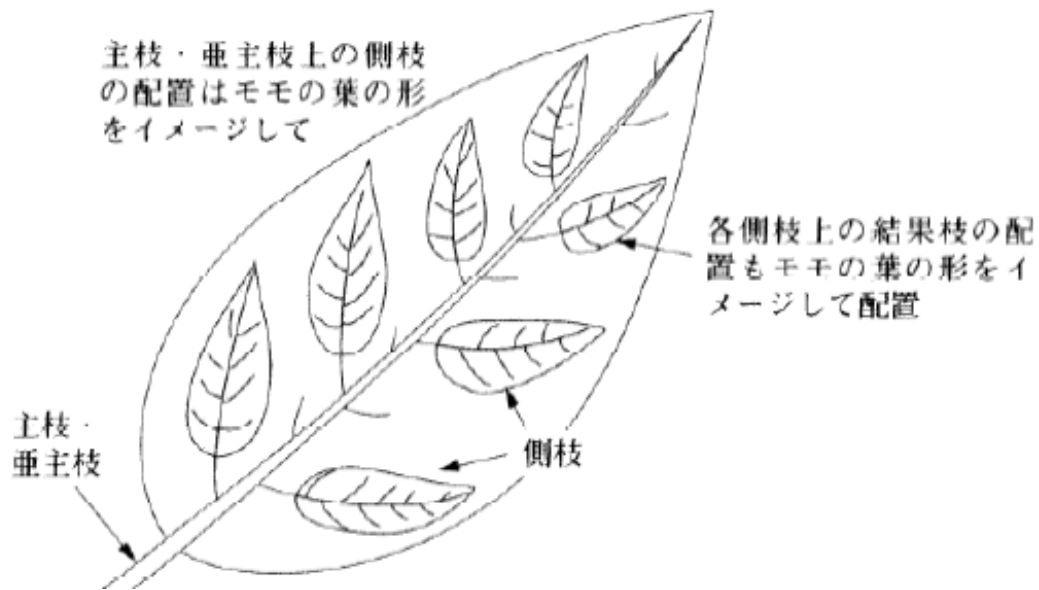


図3 側枝・結果枝の配置

※モモの葉の形をイメージして結果枝を配置する。

(5) 良い結果枝を毎年確保する

結果枝はその長さによって5種類に分類される(図4)。「あかつき」では、品質が安定する短果枝～中果枝を中心に利用するが、側枝の更新のため、側枝基部には長果枝を適宜配置する(発生させる)必要がある。

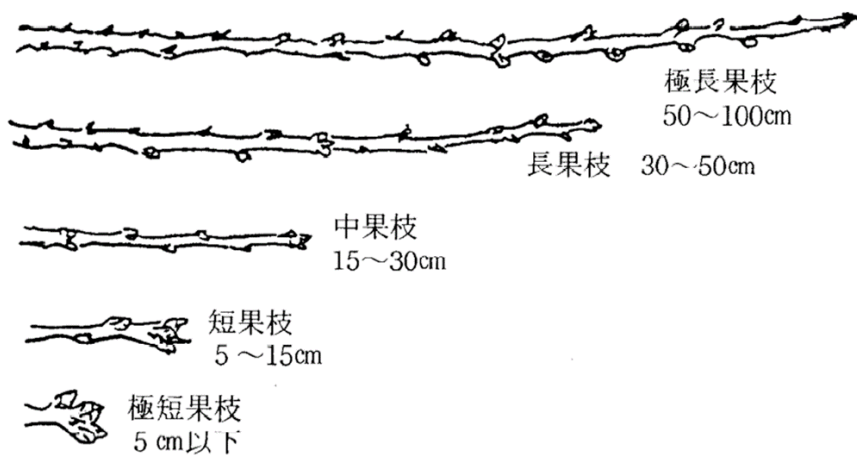


図4 結果枝の種類

(6) 品種別の優良な結果枝の目安

品種	長さ(cm)	備考
「はつひめ」「日川白鳳」「暁星」「あかつき」など	20~25	・太くて赤味があり、花芽が充実した枝 ・せん定時はやや立ち気味で、着果後は果実の重みで水平になる枝
「川中島白桃」など	10~15	・せん定時は角度が水平に近い枝

(7) 樹勢によるせん定の違い (図5)

ア 樹勢が強い場合

間引きせん定を主体とし、短果枝をなるべく多く残す。

イ 樹勢が中庸な場合

間引きせん定と切り戻しせん定を適宜実施し、充実した中～短果枝を残す。

ウ 樹勢が弱い場合

切り戻しせん定を主体とし、中長果枝の発生を促す。特に下垂して弱った側枝や老化した側枝は生産性が低いため、更新の意味でも、より基部側まで切り戻す。

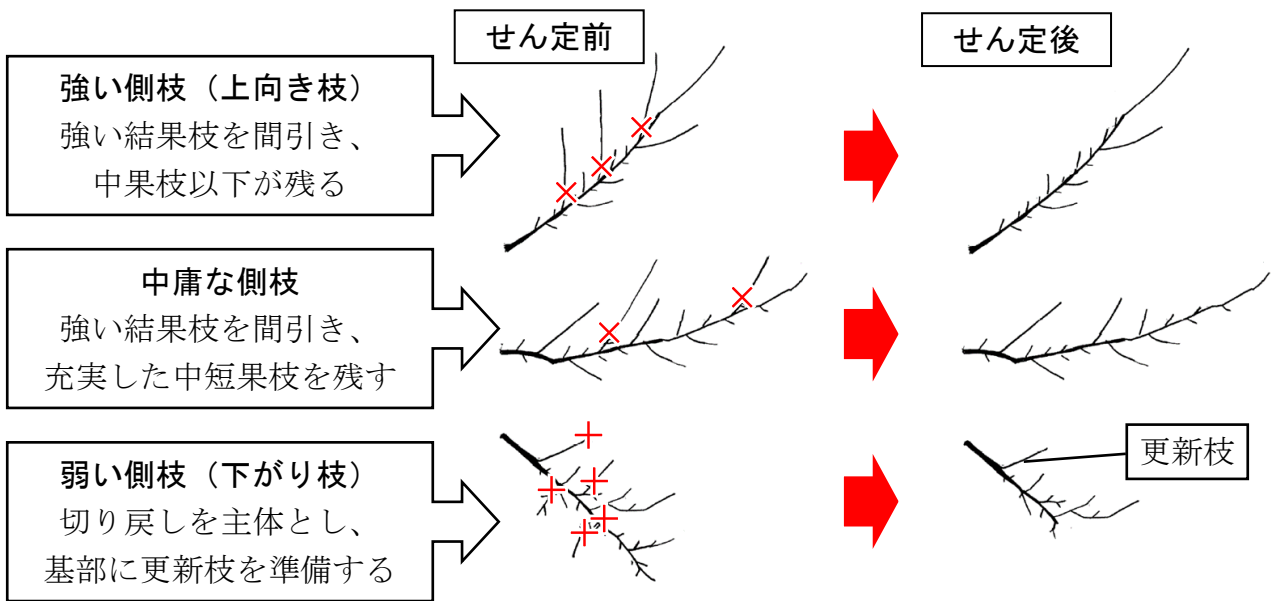


図5 側枝の強さとせん定方法 (× : 切る位置)

(8) 骨格枝の樹勢低下防止

ア 骨格枝には、基部から先端まで一定の間隔で背面枝を配置し、先端に向かう樹液の流動を促し、衰弱や日焼けを防ぐ。ただし、背面枝は大型化しやすいため、特に基部側の背面枝は、夏季せん定や秋季せん定により、年間を通じて小型に維持する (図6)。

イ 樹勢が低下しないよう、側枝には、主枝・垂主枝の赤道部より上 (斜め上) から発生した枝を、一定割合使用する。



図6 骨格枝の樹勢維持を考慮した枝管理のポイント

3 成木のせん定

(1) 主枝、亜主枝の先端(図7)

主枝・亜主枝の先端部は発育枝や徒長枝を利用して勢力を維持する。更新するために主枝・亜主枝を切り戻す場合は、枯れ込みが入らないように、切り戻す位置の更新枝がある程度太ってからのとする。



主枝先が下垂したり、弱った場合は発育枝を利用して主枝を立て直し、主枝先端部は常に活性化させる。

図7 主枝先・亜主枝先の取り扱い

(2) 側枝の配置

側枝は下枝から上枝に向かって順次、小さくなるように配置する(図8)ただし、基部の側枝が大きくなりすぎないように側枝先端を結んだ線が、モモの葉の形になるよう配置する。主枝の背面から発出した側枝は(特に、内向枝)は強勢になりやすく、樹形を乱すので、なるべく小型に維持する(図9)。

主枝や亜主枝の腹面から発生した側枝は品質が劣るので除去する。

側枝全体の角度は水平から上下30度の範囲を中心に維持する。

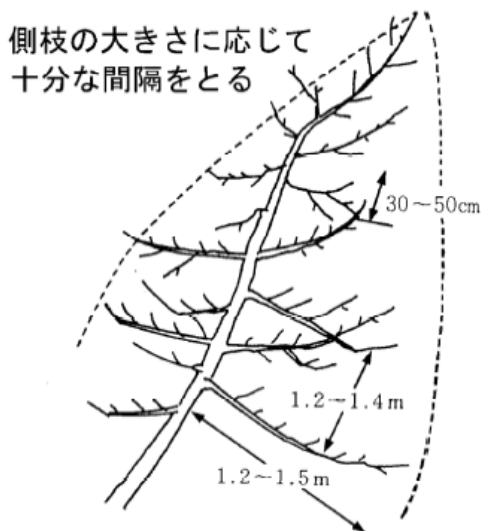


図8 主枝上の側枝の配置(側面)

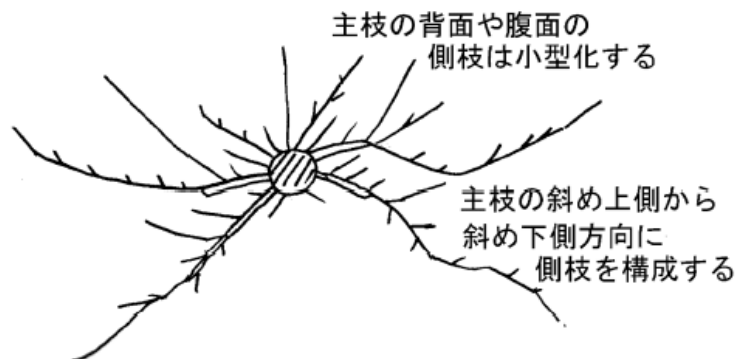


図9 主枝上の側枝の配置(正面)

(3) 側枝の更新

側枝内の結果枝は短果枝~中果枝が中心になるよう心がけ、間延びした短果枝が増える前に側枝を更新する。

側枝更新の方法は、側枝内の枝を利用する方法と、主枝・亜主枝から発生した発育枝を用いて、古い側枝を基部よりせん除する2つの方法がある(図10)。

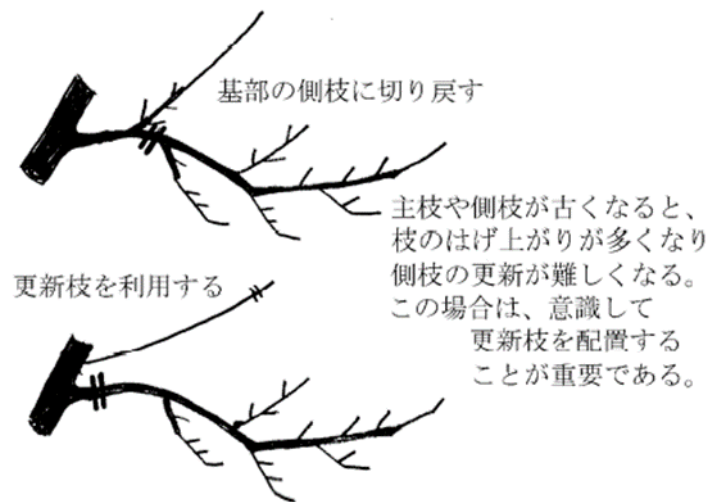


図 10 側枝の更新方法

(4) 側枝の維持

側枝のせん定は、中～短果枝に良果のなる「白鳳」「あかつき」「ゆうぞら」などのような品種では、側枝を落ち着けて中～短果枝を形成させるため、間引きせん定が主体となる。早生系品種では、中～長果枝を得るために切り戻しせん定が多くなる。

(5) 結果枝のせん定

下向きの弱い結果枝と上向きの極端に強い長果枝、混み合っている部分を間引く。側枝の下側にある極短果枝（5 cm 以下）は、摘らいや摘果の省力化のためせん除する。

せん定作業中の事故に注意しましょう

脚立使用時は・・・

- ◎ 天板に乗らない！
- ◎ 切除時に枝をつかんで引っ張らない。
- ◎ 開脚防止チェーンを必ずかける！
- ◎ 上り下りの際はハサミなどを持たず、脚立をつかむ！